

2026年度

東京女子大学入学式

現代教養学部

2026年4月1日
東京女子大学講堂

入 学 式 次 第

司 式 大学宗教委員長 佐 野 正 子
奏 楽 大学オルガニスト 中 内 潔
合 唱 東京女子大学クワイヤ

前 奏

合 唱 “Rejoice in the Lord” G.J. Elvey クワイヤ

讃 美 歌 第Ⅱ編46番 一 同

聖 書 フィリピ[°]の信徒への手紙 第4章8-9節 司 式 者

祈 禱

呼 名

式 辞 学 長 太 田 邦 史

誓 約

学科・専攻主任紹介 学部長 山 本 真 吾

讃 美 歌 234番A 一 同

後 奏

* * * * *

教育後援会長祝辞

大 川 世 紀

フィリピの信徒への手紙 第4章8－9節

終わりに、兄弟たち、すべて真実なこと、
すべて気高いこと、すべて正しいこと、すべて清いこと、
すべて愛すべきこと、すべて名誉なことを、
また、徳や称賛に値することがあれば、それを心に留めなさい。
わたしから学んだこと、受けたこと、
わたしについて聞いたこと、見たことを実行しなさい。
そうすれば、平和の神はあなたがたと共におられます。

讚美歌 第Ⅱ編 46番*

Come, all who love the way of truth
 詞: Edmund Charles Blunden, 1950

ETHNOL
 曲: 17世紀イギリス民謡
 (編曲) 黒沢敏一 1950

まこととをあいするすべてのとともよけ
 きたれやわれらのまなびのそのにけ
 だかきころをそだてはぐくむうえなきえ
 いちをともにぞたたえんゆたけきめぐみのす
 べてにまして主イエスのことばをわれらはほこらん

- 1 真理をあいする すべての友よ
 きたれやわれらの 学びの園に
 気高きころを 育てはぐくむ
 うえなき英知を 共にぞたたえん
- 2 あかるき遊びと 笑いのために
 たのしき学びと 憩いのために
 あまたの師友を 知り得しために
 喜びあふれて 我らはうたわん
- 3 芝生に林に おおる花と
 さえずる小鳥と 飛び交う虫と
 くすしき自然の 言葉のために
 つきせぬ感謝を 我らはささげん
- 4 ゆたけき恵みの すべてにまして
 主イエスの言葉を 我らは誇らん

*この讚美歌は英詩人故 Edmund Blunden O. M. が当時の学長斎藤勇博士の要請に応じて1950年
 作詩された本学の College Hymn の翻訳です。訳者は由木康氏です。

讚美歌 234番A

EG YOUNG, 1930

TRUMPET NO. 2
 W. H. VILBERT, 1894

よかし主イエスのまきたまいし
 ともちいさきいのちのたねめ
 ばえそだちてちのはてまでそ
 のえだをはるきとはなりぬて

- 1 主イエスの播きたまいし
 いとも小さき生命のたね、
 芽生え育ちて地のはてまで、
 その枝を張る樹とはなりぬ。
- 2 歴史のながれ 怕きものを
 返らぬ過去へ 押しやる間に、
 主イエスの建てし愛の国は
 民よりたみへ ひろがりゆく。
- 3 時代の風は 吹きたけりて、
 患の波は あいうてども、
 すべての物を 超えてすすむ
 主イエスの国は 永久に榮えん。
- 4 父なる神よ み名によりて
 世界の民を ひとつとなし、
 地をばあまなく み国とする
 みちかいとく はたしたまえ。